

# 令和元年度 南伊豆町生涯活躍のまち推進計画（案）

南伊豆町



## はじめに

南伊豆町における生涯活躍のまちづくりは、平成 27 年度に、本町の持つ優位性を活かした「健康創造型生涯活躍のまち」として具体的な取組が開始されました。

本町でこのような取組が始まった背景としては、古くから自治体間での交流を続けてきた東京都杉並区との交流の歴史に裏付けられ、全国初となった自治体間連携による特別養護老人ホームの整備により、継続的なケア体制の構築と都市部の高齢化への認識の高まりが大きく影響しています。

平成 27 年度から本格的に取組み始めた健康創造型生涯活躍のまちづくりは、平成 28 年度に設置された「南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会」での審議を経て、「教えあい学び合う（生涯学習）」をキーワードに若者から高齢者までを取り込みながら、健康寿命を延ばすとともに、地域住民にも移住者にも魅力のあるまちづくりを目指すこと（地理的空間的展開）とし、「既存施設の有効活用」により、多世代向けの住まいや働く場所の整備、また高齢化の進んだ際の地域包括ケアシステムを進めること（時間的継続的展開）を基本とした南伊豆町版生涯活躍のまち「(仮称) ミナミイズ温泉大学プロジェクト」中間まとめとして報告され、同報告の内容に基づき取組の深化を図ってまいりましたが、一方では当初想定していた旧湊病院跡地利用については財政面、防災面の観点から見送ることとなりました。

こうした経過を踏まえ、本町では、南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会による中間まとめの趣旨を可能な限り尊重しつつ、身の丈に合った生涯活躍のまちづくりを進めていくための計画として、南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会による中間まとめで示された 3 つ視点からをまちづくりの柱とした「南伊豆町生涯活躍のまちづくり事業計画」を策定します。

## 南伊豆町生涯活躍のまちづくり推進の視点

### 1 健康創造型のまちづくり

これまで早稲田大学との連携による「世界一健康寿命の長い町」を目指した取り組みを推進してきた。今後も地域住民をはじめ、移住者等の健康寿命の延伸を図り、みんなが生涯活躍できるまちづくりを進める。

特に平成 29 年度に開設した健康福祉センターを中心として、介護サービス事業所、老健、特養との連携を図り、誰もが、生涯にわたり、どの地域においても必要に応じて医療・介護・福祉サービスを継続的に受けることが出来る体制を構築し、仮に個人が要介護状態や認知症 になってもそのことで困らない、すなわち健康と言える社会環境を目指す。

介護や医療サービスを日常的に提供を受け、また、積極的に自らの健康を創造するためには、高齢者も自律的に、気軽に移動することができる環境を整備することが必要である。

## 2 「教えあい学びあう」まちづくり

南伊豆町に集う全ての人々がこれまで培ってきた豊富な知識と経験を活かし、互いに「教えあい学びあう」ことによって、町民自らが先生であり学生であるような地域づくりが可能となるような、健康で幸福を感じつつ生涯活躍できる南伊豆町をつくる。

地域の創生を担う人づくり、みんなが生涯活躍できる場所づくりを行うため、町に集う人々の知識と経験を活かした「教えあい学びあう」をキーワードとしたまちづくりを進める。南伊豆のヒト・モノ・コトを活かした人それぞれの学びのプログラムを提供する。

## 3 全世代で交流人口、関係人口を増やすまちづくり

移住者を増やすことに加えて、さまざまな分野で交流人口及び関係人口を増やす取組を進める。交流人口の増加が賑わいを創出し、関係人口の拡大で地域の活力を向上する。

南伊豆町と杉並区の自治体間連携による、日本で初めての特別養護老人ホームの共同整備によって培った交流・連携をまちづくりの分野でもより一層進める。特別養護老人ホームによる介護サービスの提供と組み合わせ、包括的なケアの基盤の上に二地域の継続的な関係が多年にわたり可能となるような、一生涯・多世代にわたる継続的交流居住の試みの展開を図る。

この間進めてきたお試し移住を一層推進するとともに、多世代、特に若い世代の移住者、滞在者を意識して、空き家を整備活用する。

杉並区小学生移動教室や子ども漁村交事業の充実を図り、杉並区の子どもたちに南伊豆でしかできない学びや体験を提供するとともに、広く一般区民を対象として、南伊豆の地域資源を生かした健康づくりや生きがい活動を支援する。

都市部の若者の視点やアイデアを取り入れたまちづくり、例えば働く場の確保や多世代の移住を促進するためのサテライトオフィスの整備などを進める。

その他、高校大学のゼミやクラブ、部活などを積極的に誘致し、交流人口を増やし、関係人口につなげる取組を進める。

交流人口の拡大の鍵となるのが、下賀茂温泉である。人々を惹きつける温泉、日本が誇る文化ともいえる温泉の保全活用を進める。

## 事業計画の概要

これまで、地域の誰もが生きがいを持って活躍することを可能とする生涯学習のプラットフォームを立ち上げるとともに、全町民を対象とした健康に関する意識調査結果に基づく町民の健康づくりを中心とした事業を展開するとともに、南伊豆町における生涯活躍のまちづくりの進め方等について検討を進めてきた。

---

・交流人口 : 観光(旅行)や趣味、その他活動を目的に南伊豆町を訪れる人々。比較的短期間で訪れる場合が多い。

・関係人口 : 「農村に対し多様な関心を持ち多様に関わる人の総称」(明治大学教授 小田切徳美氏)

南伊豆町の地域で活動、活躍する(しようとする)ことをはじめ、地域や人と積極的に関わりを持つことを望み行動する人々

・サテライトオフィス : 企業などの本部から離れた所に設置されたオフィス。南伊豆町では、シェアオフィスを活用し、定期的に来町できる仕組みの循環型と企業等が自らオフィスを設ける滞在型の二通りでの誘致を進めている。

今後は、この間の経緯を踏まえて「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり」の観点での事業推進を図ることとし、この考え方を支え具現化する取組として、「生きがいづくり」、「健康づくり」、「仕事づくり」のためのソフト事業を展開していくこととする。それにより、本町に関わる地域内外の人が活躍し、健康で生き生きと輝くことができる状態を作り上げる。

また、これまでの取り組みの成果として、南伊豆町での暮らしを目指し、移住を検討する人が増加する傾向にあることから、それらの人のために、町内の未活用資源（空き家など）の発掘を進め、活用を図ることで、本町に関わる「ひと」のみならず「もの」も含めた地域全体が、輝きを持ち活躍することのできる状態を目指すこととする。

## 実現に向けて欠かせない取り組み

生涯活躍のまちづくりの重要な目的である交流人口や関係人口の拡大を移住者の増加につなげていくためには、地方創生を所管する部門が目的意識的に各分野の事業を調整・推進することが必要である。

### ○健康長寿を支える仕組みづくり（健康づくりは生きがいづくり）

- ・早稲田大学との連携による「世界一健康寿命の長い町」を目指した取り組みを推進し、健康寿命の延伸を図り、みんなが生涯活躍できるまちづくりを引き続き進める。
- ・公共交通が脆弱な本町では、外出の機会が低下しがちとなることから、地域内での新たな移動手段の確保などの検討により、閉じこもりを防止し、外出の機会の増加を図る。
- ・新たに開設した健康福祉センターを中心として、新たな地域包括ケアの体制を構築し、介護サービス事業所、老健、特養との連携を図り、誰もが、生涯にわたり、どの地域においても必要に応じて医療・介護・福祉サービスを継続的に受けることが出来る体制（Continuing Care Community）を構築し、仮に個人が要介護状態や認知症になってもそのことで困らない、すなわち健康と言える社会環境を目指すことで、老後の安心と安定生活につなげる。
- ・健康であることが、互いに「教えあい学びあう」生きがいの力の源になり、そのことによって、町民自らが先生であり学生であるような地域づくりにつながる。

### ○南伊豆町に集う人々の参加の拡大（交流人口・関係人口の拡大）

- ・南伊豆町で活躍する主体的な参加者、「学びでつながる人々」の参加の拡大を図ることが欠かせない。そのためにも町内外のアイデアや意見を広く求めていく。
- ・南伊豆町と杉並区の自治体間連携による、日本で初めての特別養護老人ホームの共同整備によって培った交流・連携をまちづくりの分野でもより一層進める。特別養護老人ホームによる介護サービスの提供と組み合わせ、包括的なケアの基盤の上に二地域の継続的な関係が多年にわたり可能となるような、一生涯・多世代にわたる継続的交流居住の試みとしてモデルとなるような展開を図る。
- ・杉並区内の6大学、杉並版地域おこし協力隊等とのコラボレーションにより、都市部の若者の視点やアイデアを取り入れたまちづくり、例えば働く場の確保や多世代の移住を

促進するためのサテライトオフィスやアトリエの整備などを通して、仕事づくりなど地域の課題解決に取り組む。

- ・ 杉並区小学生移動教室や子ども漁村交事業の充実を図り、杉並区の子どもたちに南伊豆でしかできない学びや体験を提供するとともに、広く一般区民を対象として、南伊豆の地域資源を生かした健康づくりや生きがい活動を支援する。
- ・ 大学のゼミ合宿などの誘致などを積極的に行い、本町を知ってもらうことにより交流人口の拡大を進める。

#### ○推進体制～まちづくり法人の設立～

- ・ 「地域主体の事業展開」「民間のスピード感とアイデア」「利益の地域内循環」の観点から、町と地域のつなぎ役として地域主体のまちづくり法人を設立し、官民の適切な役割分担のもと、連携して事業を推進する。
- ・ まちづくり法人は地域の人が活躍していくことを原則としつつ、本まちづくり事業がそれぞれ専門性の高い事業で構成されることでもあることから、必要に応じて外部からの人財も活用していく必要がある。

## これまでの経過と今後のスケジュール

### 【第1期】 平成27年度～平成28年度

南伊豆町まち・ひと・しごと創生総合戦略、生涯活躍のまち基本計画の策定、住民の健康意識基礎調査など、南伊豆町生涯活躍のまちづくりの基盤となる計画を策定

### 【第2期】 平成29年度～令和元年度

地域再生計画の認定、地方創生推進交付金を活用した生涯活躍のまちづくりの推進、健康づくり事業の推進、学びのプラットフォーム「南伊豆暮らし図鑑」整備、サテライトオフィス誘致の取組など、南伊豆町生涯活躍のまちづくりを進めるための仕組みづくりを推進

### 【第3期】（今後のスケジュール） 令和2年度～令和3年度

まちづくり法人の設立、拠点整備計画の修正に基づく町内遊休施設（空き家等）の活用推進、お試し移住用借り上げ物件、田舎暮らし体験住宅の拡充、健康づくり事業の推進、学びのプラットフォーム「南伊豆暮らし図鑑」の収益事業化、サテライトオフィス、ワーケーション誘致の取組など、「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり」の推進

- 
- ・ 杉並区小学生移動教室 : 杉並区教育委員会により、区立小学校の授業の一環として行われる。南伊豆町には小学校6年生で訪れる場合が多い。
  - ・ 子ども漁村交流事業 : 杉並区内の小学生を対象に南伊豆町の漁村での宿泊、活動体験と町内小学生との交流を目的に実施する事業（2泊3日で約40人を募集）
  - ・ 南伊豆暮らし図鑑 : 2000年春にデンマークではじまったヒューマンライブラリーを参考に生まれた、1対1で関われる南伊豆の暮らし体験プログラム
  - ・ ワーケーション : 「ワーク」（仕事）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語で、会社員などが、休暇などで滞在している観光地や帰省先などで働くこと。南伊豆町では、サテライトオフィス誘致とともに誘致を推進している。

## 計画期間

前期スケジュールのとおり、第1期（平成27年度）から第3期（令和3年度）までを本計画の期間とし、令和3年度中に次期計画を策定し、「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり」に取り組む。

## 計画目標

計画目標は、次の通りとする。

### ○健康創造型のまちづくりの推進

- ・各集落の特徴を生かした健康づくり事業、町民の健康リテラシーの向上、積極的な外出行動の促進、活躍の場づくりによる自己肯定感の向上など健康で幸福な長寿社会を作り、低下しつつある「お達者度」の向上を図る。

指標	目標	達成年度
お達者度（静岡県独自推計）	男性 29 位/35 市町⇒15 位以上 女性 33 位 35 市町⇒20 位以上	令和3年度時点（初期値：平成27年度）
<u>おたっしやポイント</u> 手帳保有者	300 人/年	令和3年度までに

### ○学びあい教えあうまちづくりの推進

- ・町民自らが先生であり学生であるような地域づくりを進め、それぞれの町民がこれまで培ってきた知識、暮らし方など商品として他者に提供することができるような仕組みづくりなどにより、地域の歴史、文化、暮らしの価値を高め、また、学ぶことで知識を得て、教えることで自己有用感の向上が得られる地域をつくる。

指標	目標	達成年度
南伊豆暮らし図鑑コンテンツ提供者	20 人（累計）	令和3年度末までに
南伊豆暮らし図鑑体験客	200 人/年	令和3年度以降毎年

・お達者度：静岡県が独自に推計する県内の健康指標。65歳から、元気で自立して暮らせる期間を算出する。

・おたっしやポイント：ボランティアや自らの健康づくりの取り組みを行うことでポイントを取得することができ、たまったポイントを町内で使用できる商品券と交換できる南伊豆町独自のポイント制度。参加希望者は、ポイントシールを張り付ける「おたっしやポイント手帳」の交付を受けることができる。



○魅力的なしごとや働く場があるまちづくりの推進

- ・既存の資源やサービスの仕組みの見直し、都市部の人や事業者等とのつながりを生かした地域産業の価値向上や新たな産業創出に取り組むとともに、高齢化や人口減少に伴う担い手不足への対応による地域産業や生活環境の維持拡充を進める。

指標	目標	達成年度
サテライトオフィス、シェアオフィスの利用者	5 団体（各年）	令和 2 年度以降 毎年
新規起業家	5 人（累計）	令和 3 年度末ま までに
一人あたり町民所得	2,000 千円（平成 26 年度しずおかけ んの地域経済計算）⇒ 5%向上	令和 3 年度末ま までに
新たな事業の仕組み	1 件	令和 3 年度末ま までに

○交流人口や関係人口の拡大、定住人口減少の抑制と地域資源の活用

- ・地域の自然や人などの魅力を求め訪れる多くの交流人口、杉並区との交流の継続、地域づくりや地域活動などで連携する大学や企業など深い交流を基礎とする関係人口の拡大、これらを含めた地域の魅力向上による定住人口減少の抑制に取り組むとともに、本町への移住を希望する新たな町民に対しては、町内の空き家の活用などにより対応するなど積極的な地域資源の活用を図る。

指標	目標	達成年度
町内への移住者	90 人（累計）	令和 3 年度末ま までに
お試し移住利用者	長期 15 組／年 短期 50 組／年	令和 3 年度以降 毎年
空き家バンク登録物件・活用物件	登録 40 軒（累計）・うち活用 32 軒（累計）	令和 3 年度末ま までに
杉並区との交流事業	南伊豆を体験するツアー 8 回／年 杉並区内での交流事業（物産展等） 5 回／年	令和 2 年度以降 毎年